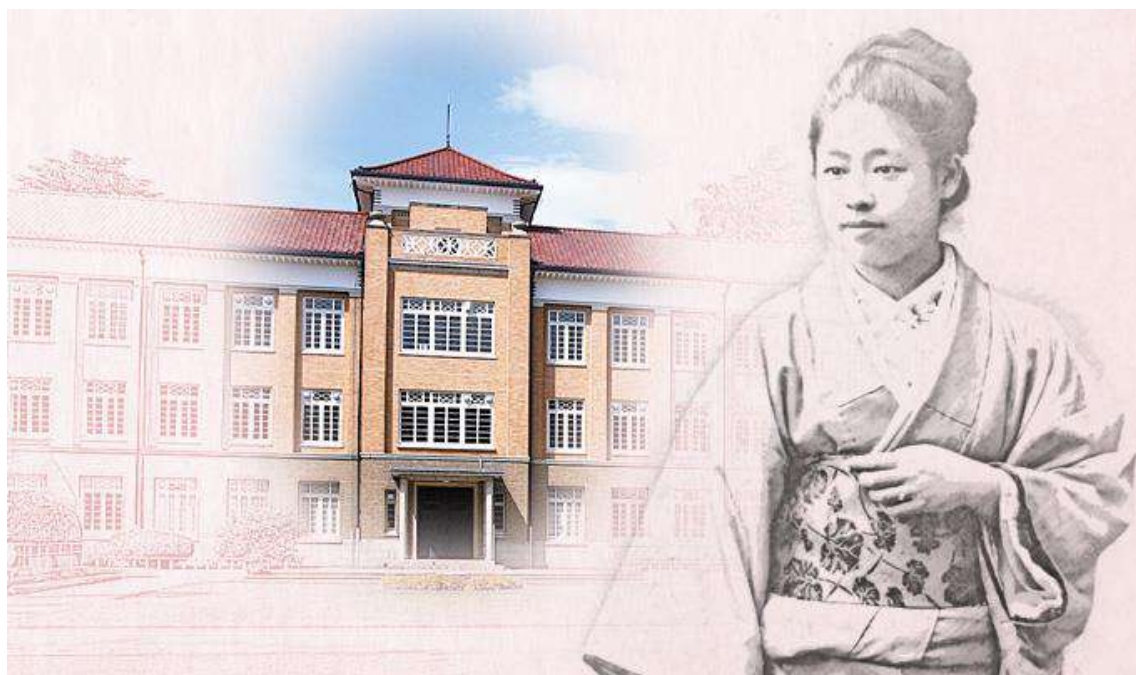


## 【日本の大学】第44回——津田塾大学：女性の国際化や社会進出に貢献

津田塾大学は、1900年に創立者津田梅子が先進的な私立の女子高等教育機関である「女子英学塾」を東京の麹町区一番町(現在の東京・千代田区)に開校したことに始まる。梅子はその30年ほど前、明治時代の初期の1871年、日本で最初の女子留学生5人のうちの最年少、満6歳で米国に留学した。首都ワシントン近郊のジョージタウンに住む夫妻の家に預けられ、現地で初等・中高教育を受け、米国の生活文化を吸収して成長、11年後の1882年にいったん帰国した。その際、日本における女性の置かれている状況に驚き、その地位を高めなければならないとの思いを募らせ、1889年に再度、米国に留学した。米国での大学生活で、質の高い少人数教育を受けた経験が、その後の梅子の教育観の確立につながった。



津田塾大学の創立者津田梅子

### 受け継がれる教育精神

3年後に帰国した梅子は華族女学校などで教鞭をとるかたわら、女性のための高等教育に力を尽くす決意を固め、準備を進めた。1900年、「女子英学塾」の開校式で梅子は、真の教育には、教師の熱心、学生の研究心が大切であること、学生の個性に応じた指導のためには少人数教育が望ましいこと、人間として女性として all-round でなければならないこと、などを語った。この言葉は、津田塾の教育精神として受け継がれている。

現在も英語教育、少人数教育、留学・国際交流に力点を置いており、英文学や国際関係学の分野で活躍するOGを多数輩出し、女性の社会進出に貢献している。

以下、津田塾大学のホームページなどから、大学の歩んできた道や現状をみていこう。

開校の時には、横浜、広島、群馬、鹿児島など全国から10人が入塾した。1903年には、五番町(現千代田区)に校舎を移し、初めての卒業式を行った。1905年には、女子の学校では初めて英語科教員無試験検定取り扱い許可を受けている。

1923年9月には、関東大震災で五番町校舎が全焼、米国などで救援募金活動が行われた結果、募金が集まり、翌24年1月には仮校舎で授業を再開することができた。29年8月には梅子が享年64歳で死去し、梅子の志を受け継いだ星野あいが第2代の塾長となった。星野は1952年に辞任するまで塾の運営と発展に心血を注いだ。1931年には、学校用地として10年ほど前に取得してあった東京府下北多摩郡小平村(現東京都小平市)に新校舎を移転した。この時の塾生は352名だった。33年には創立者津田梅子を記念して、名称を「津田英語塾」に改めた。(1943年には理科が新設認可され「津田塾専門学校」に改称)



津田塾大学のシンボルともいえるべき建物——本館（小平キャンパス）

津田塾大学が設立されたのは第2次大戦後の1948年で、英文学科を置いた。翌49年には、数学科を増設し、英文学科とともに学芸学部となった(在学生442名)。

その後、語学研究所の設立(1960年)、大学院の設置(1963年)、国際関係学科の設置認可(1969年)、国際関係研究所の設置(1975年)、数学・計算機科学研究所設置(1988年)、視聴覚センター棟の落成(1990年)など拡充が続いた。1996年には数学科を情報数理科学科に改称している。

梅子が米国にいた1873年に受洗し、キリスト者となったことから、大学では学則に「キリスト教精神に基づく教育」を行うことが明記されている。礼拝が毎週行われ、キリスト教関連の科目が開講されるなど、キリスト教主義に基づく学校であるが、参加するかどうかは学生の意思に任されている。

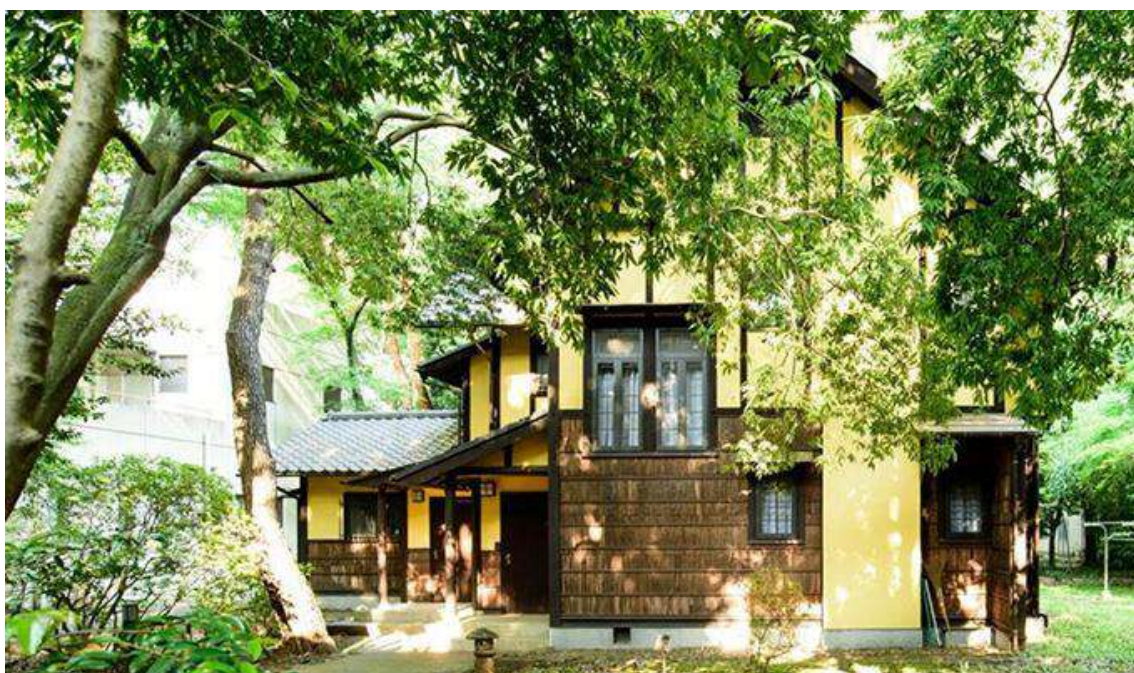


津田梅子記念交流館 — 岡島記念チャペル

最近の組織変更としては、2017年に総合政策学部総合政策学科を開設し、2019年には、英文学科を英語英文学科と改称したほか、学芸学部にも多文化・国際協力学科を設置した。

英語をトータルな視点で

現在、小平キャンパスにある学芸学部は英語英文学科のほか、国際関係学科、多文化・国際協力学科、数学科、情報科学科がある。英語英文学科は、津田塾大の伝統ともいえる学科で、英語という言語や文化をトータルな視点でとらえながら、英語を通じて異文化を探究し、世界と関わり行動できる力を身につける。イギリス文学・文化コース、アメリカ文学・文化コース、英語学コース、英語教育コース、異文化コミュニケーションコース、Japan Studies in English コースの6コースがある。学部学生は2年次から興味を持ったコースの関連科目を履修し、3年次に専攻・コースを選択する。どのコースに属しても、関連ある科目を自由に履修できる。



3号館。2000年度、100周年記念事業の一つとして建設当初（1930年代）の雰囲気再現しながらゲストハウスとして整備された。主に外国人の客員教員や研究者の滞在施設として使用されている。

国際関係学科は、政治、経済、外交、文化など多様な視点から国際社会にアプローチする。世界は、国家、地域社会、民間企業、個人にいたるまで多くの問題を抱え、解決策を模索している。1年次から専門分野を視野に入れた基本科目と少人数セミナーを中心に学んでいく。2年次からは専門分野の知識を深めていく。英語に加えて、他の言語から一つ以上を選択して学ぶ。

多文化・国際協力学科は、国際社会が抱える問題に対して実践的に取り組む。1年次に国際関係概論や地域研究などの基礎知識を身につけた後、2年次から、多文化共生、国際協力、国際ウェルネスの3コースから一つ選んで学んでいく。4年間を通してセミ

ナーを開講、3・4年次に実施されるフィールドワークに備える。

数学科は、高校までの数学との連結に重点を置く基礎から、現代数学とその応用までをカバーする多様性と、演習を重視したカリキュラム編成で、素養を培いながら数学的思考力を育成する。

情報科学科は、プログラミングやシステム、ネットワークの基礎をじっくり学び、そうした力を実践的に高めることで、技術の進歩に対応する基礎力と創造力やマネジメント力を養成する。



1954年に丹下健三氏の設計によって建てられた図書館は、星野あい第二代塾長（初代学長）を記念して「星野あい記念図書館」と呼ばれている。

### 総合政策学部を創設

総合政策学部は2017年に竣工した千駄ヶ谷キャンパスに創設された。総合政策学科1科で、コミュニケーションを重視した実践的な英語や課題を特定するデータ分析力を土台に、現代社会の諸課題を解決する力を備え、リーダーシップを発揮する女性を育成する。課題解決能力を培う土台として、「英語」「ソーシャル・サイエンス」「データ・サイエンス」を必修とし、課題解決型学習の手法を活用しながら、学生自ら課題を発見し、その解決に向けて調査・研究を行うといった主体的な学びを展開する。特に2年のセミナーではインターンシップやボランティア、フィールドワークも行い、具体的かつ

実践的に学んでいく。

どの学部、学科においても英語教育には最も力点を置いている。到達別クラスの下で、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を専門性と統合しながら総合的に学んでいく。少人数によるセミナーは1年次からすべての学部・学科で必修となっており、プレゼンテーションや議論を通して「多角的に考える力」や「考えを伝える力」を養う。



軽井沢セミナーハウス。セミナー単位での活動を中心に、校外学習の拠点として利用されている。

学びや活動の機会を海外に求める学生が多いのも特徴である。異文化の中に身を置くことは、外国語の能力を高めるだけでなく、価値観を広げる機会にもなる。

このほか、必修科目がない第2タームと夏期休暇を合わせた約2カ月半（6月中旬から8月末）を「ギャップターム」とし、この期間を利用してインターンシップやボランティアなどさまざまなキャンパスを越えた活動を自主的に学修する。学外での体験は、考え方や価値観を刺激し、新たな思考力、創造力を育む。学外研修は任意参加で、学生が主体となってリサーチし、計画書を作成して、希望のプログラムにチャレンジする。

1 年次から毎年履修することが可能で、時期も自由である。

ほかの大学との活発な交流を促すために単位互換制度も設けている。学外で履修した科目の一部は卒業単位として認定される。

第2外国語は、英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科では1・2年次必修である、他学科は選択履修となっていていずれも6言語から選択できる。

日本初の女子留学生だった津田梅子が創立した学校だけに、学びや活動の機会を海外へ求める学生が多い校風がある。この伝統を受け継ぎ、グローバルに活躍する人財を育てるため、国際センターを中心に、海外の大学・教育研究機関との学術・文化交流を促進している。協定校留学をはじめ、高い専門性ととも国際的な広い視野を育む学生のさまざまな活動を積極的にサポートしている。

協定校留学は、大学が協定を結んでいる海外の29大学、および大学が参加している日加学生交流プログラムへ選考試験を経て派遣される留学で、春と秋に学内選考試験を実施している。大学を通して出願するため、多くの支援が受けられる。授業料や寮費・食費の減免を受けられる大学もある。大学の学費は全額減免又は在籍額相当額(半期10万円、年額20万円)に減免される。協定校からは留学生を受け入れており、協定校のうち3大学では第2タームと夏期休暇を利用した語学研修を実施している。

このほか、認定留学(私費留学)、休学による留学(私費留学)、大学主催の語学研修が用意されている。

教員数は、専任教員101名、特任2名、兼任445名の計548名である。学生数は学部が3142名、大学院は74名。(2021年5月現在)。



2018 年の卒業式・学位記授与式

学長は高橋裕子氏である。1980 年津田塾大学学芸学部英文学科を卒業し、海外留学などの後、1997 年から津田塾大学学芸学部助教授、2004 年から同教授、16 年から現職。米国研究、津田梅子研究、トランスジェンダー問題などで著書が多い。

文：滝川 進

写真：津田塾大学 HP & FaceBook